

発達障害者の多様な特性（強み）を活かす ための相談・支援ツールの開発について

- 西脇 昌宏（障害者職業総合センター職業センター企画課
障害者職業カウンセラー）
- 森 優紀（障害者職業総合センター職業センター企画課）
- 南 亜衣（障害者職業総合センター職業センター企画課）

発表内容

1. ワークシステム・サポートプログラムの概要
2. 開発の背景
3. 強みの捉え方
4. 強みの認識阻害要因と促進要因
5. 技法開発に関する今後の方向性

1. ワークシステム・サポートプログラム (WSSP) の概要

約5週間

約8週間

ウォーミングアップ・アセスメント期

- ・ 受講者の状態像の把握
- ・ 支援方法の仮説づくり

職務適応実践支援期

- ・ 支援仮説の検証
- ・ 受講者に合った支援、環境、配慮等を整理

1. ワークシステム・サポートプログラム (WSSP) の概要

就労セミナー

- ・問題解決技能トレーニング
- ・職場対人技能トレーニング
- ・手順書作成技能トレーニング
- ・リラクゼーション技能トレーニング



作業



個別相談



作業、就労セミナー、個別相談を関連付けて支援を実施。

2. 開発の背景

WSSP受講者の傾向

- 過去3年間におけるWSSPの受講者満足度は高い（H30年度=82%、H31~R2年度=100%）
- 障害特性の把握、苦手なことへの対処方法の習得等に有用性を感じている

一方で

自分の長所を見出しにくいという感想が散見される

↳ 研究分野では“強み（Strength）”

2. 開発の背景

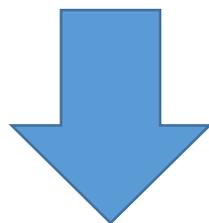
強みに関する研究知見

強みとして自覚している側面が多い学生ほどキャリア意識が高く、キャリアビジョンを明確に持ち、積極的に就職活動をしている(駒沢・石村,2015)

強みを多く活用している人は長期にわたってストレスを感じにくいことや(Wood, Linley, Maltby, & Hurling, 2011), レジリエンスが高まることが報告されている(Linley & Stoker, 2012)。

2. 開発の背景

個人の強みに着目することは**効果的な職業選択**や**積極的かつ粘り強い就職活動等**を実現する上で重要な視点と言える



発達障害者の強みの認識とその活用を促すための相談・支援ツールの開発に取り組むにした

3. 強みの捉え方

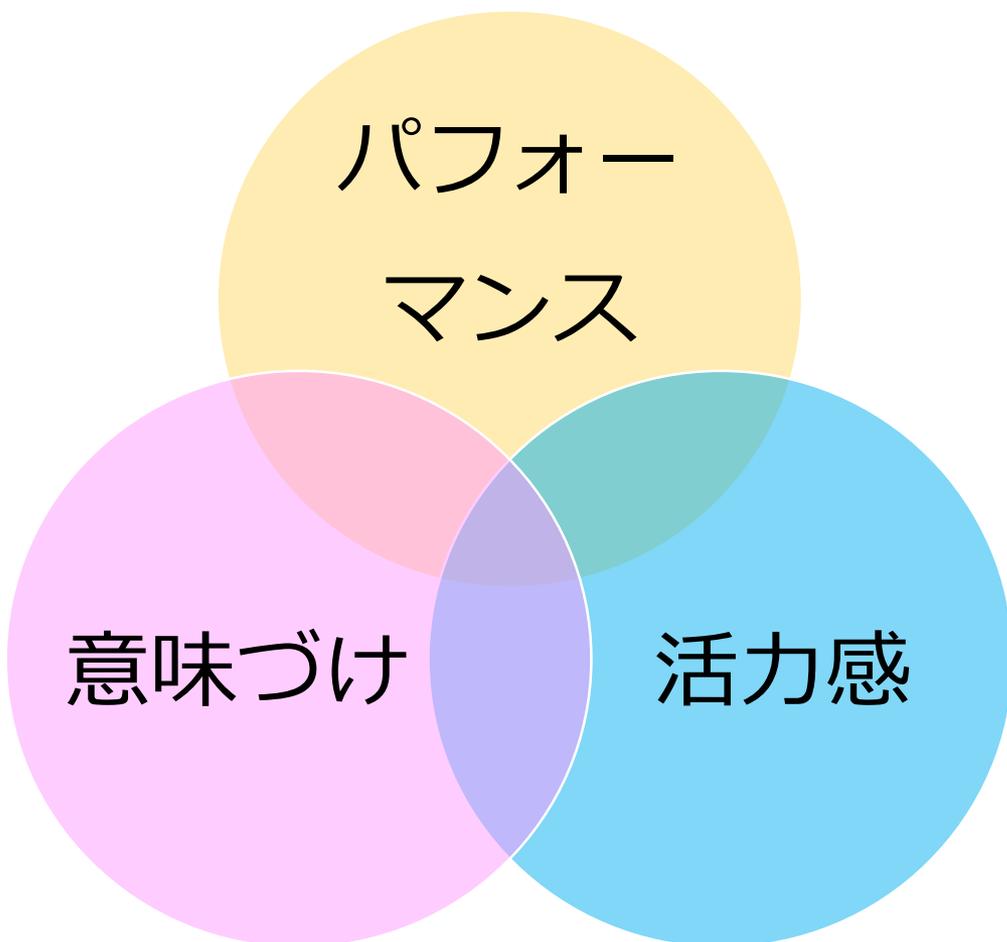
【強みとは】

その人特有の思考・感情・行動に反映される力であり、その人にとって特別な意味を成す、生きる上で頼りになるもの(駒沢・石村, 2016)

【強みの例】 ※駒沢・石村作成の強み同定尺度より

- ・努力を惜しまず、一生懸命物事に取り組める
- ・好奇心が強い
- ・状況に合わせて臨機応変に対処できる

3. 強みの捉え方



駒沢・石村（2015）は強みを構成する要素として、パフォーマンス、活力感、自分らしさの主要な側面としての意味づけ、の3つを提案している

4. 強みの認識阻害要因と促進要因

強みの認識が困難だったケースが【ある】
→29/30センター(ケース総数62)

【強みの認識を阻害する要因】

1. 自己肯定感の低さ、自信のなさ、自己効力感の低さ
2. 強みの捉え方(強みとする基準の高さ、範囲の狭さ)
3. 強みとする基準が分からない

4. 強みの認識阻害要因と促進要因

【強みの認識を阻害する要因】

4. 否定的な事象への焦点化（強みに目が向かない、失敗経験へのとらわれ）
5. セルフモニタリングの弱さ
6. 就労との関係で強みの実感・イメージが持てない／イメージしづらい
7. 失敗経験の多さ、褒められた経験の少なさ

4. 強みの認識阻害要因と促進要因

【強みの認識を促進する要因】

1. 成功体験の積み重ね、強みやできていることの振り返り（フィードバック）
2. 強みの捉え方に関する助言
3. 強みの具体的なイメージ作り
4. 弱みや課題の改善

5. 技法開発に関する今後の方向性

1. 強みの種類や活用方法に関する整理表の作成
2. 強みの認識と活用を促すための講習の開発
3. 強みの認識を促す上で効果的な相談・支援ツールの開発
4. 実践報告書の作成

5. 技法開発に関する今後の方向性（参考）

講習の構成案

強みの定義・構成要素・具体例の紹介

強みの具体化、イメージづくり

強み同定尺度の実施（強み探索）

強みへの焦点化

他者の強み当てゲーム

他者からのフィードバック

自分の強みが発揮されたエピソードの振り返り

強みへの焦点化

自分の強みを意識的に活用した場面を記録するホームワーク

セルフモニタリング機会の創出